

高田
本山
だより

楽しく仏教を

檀信徒研修会



煩惱具足と信知して

108

檀信徒研修会報告

十月二十四日、第六十三回檀信徒研修会が開催され、高田派第十八世円遵上人について松山智道先生をお迎えして研鑽を深めました。読者の中には高田学苑にご縁のあるかたも多くおられるのではないかと思いますが、上人は学苑の前身である勸学堂を創立された方です。

円遵上人のお導き えんじゆん 松山 智道



高田派第十八世のご法主である円遵上人は、一七四八（延享五）年三月十八日にお生まれになり、一八一九（文政二年十月二十二日に七十四歳で亡くなっておられます。

上人が六歳でご本山に入られました。幼い円遵上人を第十七世のご内室であられた紫雲光院様がお育てになられたわけでありますが、紫雲光院様にとつては、最愛の人を次々と失うという悲しみ

の中で、次代を担う第十八世の養育に励まれたのであります。

『現代学生百人一首』（東洋大学主催）に「一歩ずつ大人になっていくたびに母の涙に気付いてしまう」という高校一年生の歌が紹介されていますが、若き頃の円遵上人を知るにつけて、円遵上人も紫雲光院様の悲しみの涙、喜びの涙に思いを馳せながらご成長されたのではないかと思わずにおれません。

円遵上人は、十一歳で得度され、ご本山のご住職とされました。十四歳のとき、ご本山では親鸞聖人五百年忌大法会が盛大に行われていますので、第十八世としての使命感、責任感も養われたことでしょう。史料によ



りますと、学ぶ意欲が旺盛で、仏教の勉強はもちろんのこと、様々な分野にわたって精力的に学ばれたそうです。十八歳で『高田派源論』『高田三祖伝』を著わされ、十九歳のとき「慚愧御書」「断肉御書」を各寺院に出されています。

『高田派源論』の「派源」とは、親鸞聖人のお心に立ち帰ることであり、『高田三祖伝』は、親鸞聖人、高田派第二世・真仏上人、高田派第三世・顕智上人の御高德を讃えられたものであります。また、「慚愧御書」



WEB version



〔断肉御書〕には、「心得違いの輩もあって、放逸をなす者もあり、又逆に持戒清浄にて、三業の過失を慎むに非んば浄土往生が出来ないと思う類もあり、これも本願の深意を知らざる一類である」と述べられ、ご自身においては食肉を断っておられる理由が明かされています。「慚愧」とは、過ちを反省して、心に深く恥じることであります。阿弥陀さまが罪深い者を必ず救うと誓われていても、何をしてもかまわないというわけでは

ありません。円遵上人の「慚愧御書」を拝読しますと、親鸞聖人の「葉あり毒を好めと候うらん」とは、あるべくも候わずとぞおぼえ候う」のお言葉が思い起こされます。このお言葉は、阿弥陀さまのお救いを心得違ひする方々への親鸞聖人の悲しみでもあります。仏教には「不殺生戒」（いのちの大切さ）が説かれています。私たちが殺生をせずには生きていきません。何も食わずに生きることはできません。しかし、殺生してもかまわないわけではありませ

り、食肉を断られたのは、殺生の罪を犯さずに正しく生きているという姿を示しておられるのではなく、いのちをいただいていことに慚愧の心を失わないためであり、さらにはその慚愧の心において阿弥陀さまのお救いを噛みしめ味わっておられるのであります。このような心が通った生き様の背景には、紫雲光院様の養育があったこと

はもちろんのことではあります。親鸞聖人のお言葉を真摯に学ばれ、その聖人の悲喜の涙を知れることによつて育まれたものでありましょう。その後、円遵上人は四十九歳で「改悔文」を著され、現在もこのお言葉を読経後に拝読されるご家庭があります。また、その二年後には各寺

院に「緋御書」を出され、現在も元旦に拝読されるお寺が多いようです。親鸞聖人の御教えを学ぶための「勧学堂」（現在の高田学苑の前身）も建立されました。円遵上人の指導は今もなお続いています。

（随願寺住職）



上・午前、講演をされる松山智道先生
表紙・午後、法話をされる佐藤弘道先生
円内・分散会各会場の風景



親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第二回 青蓮院門跡

京都東山に位置する青蓮院は観光で訪れる方も多いかと思えます。季節によっては夜間拝観も行われ、昼間とはまた違った風情をみる事ができます。

親鸞聖人得度の間がある宸殿やお庭を訪れるのですが、手前にある植髪堂を見落としてしまう方も多いのではないでしょうか。私も今回の訪問ではじめて訪れることができました。

親鸞聖人得度の間があられており、親しみをおぼえます。聖人得度の際の髪を植えた木像やその髪を埋めたとされる石碑があり、あらためて聖人ご縁のお寺なのだ感慨にふけるのでした。

青蓮院門跡には京都市地下鉄東山駅から徒歩八分です。(山川蓮生)



汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。(敬称略・奉仕順)

九月 心覚寺・正運寺・西光寺・撰取院

十月 随願寺・壽福院・良珠院・常超院・本照寺・正念寺・

眞昌寺・正覚寺・一身田第3一寿会・一身田第1一寿会

十一月 三重長寿北部・日赤滋賀・慈教寺・光善寺・正

楽寺・要泉寺

清掃奉仕日程

九時 御対面所にて参詣

担当者挨拶・案内

九時半清掃

終了時にお礼挨拶

十一時茶所に移動・見学

十二時お非時(お食事)

親鸞聖人のみもとで汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わさり本山が護持されています。お寺さまだけではなく一般の団体の方にもご来山いただいております。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いします。

WEB version

WEB version



九月二十一日 雨の合間を縫って仏教保育合同参拝でこどもたちが色とりどりの風船を空に放しました。今年はどこまで飛んでいったでしょうか。



本山の清掃奉仕だけでなく、寺内町の清掃活動が十月二十九日にあり本山境内を含む環濠なども掃除をしています。大人だけでなく中学生も一生懸命にしていました。

他にも、いろいろな行事がありました



九月十九日～二十五日 讚佛会が例年通りつとまりました。中日には、法主殿直々にお言葉を頂戴しました。



十一月三日・四日 納骨堂法会がつとまり、お七夜に次ぐ賑わいを見せましたが、四日は平日になったため比較的のんびりとお参りできました。



十月十七日 お寺の坊守さんたちが研修で岡崎の寺々を訪れました。



十一月十八日 紅葉堂法会がありました。普段、参詣することの出来ないこの阿弥陀さまに参詣する唯一の機会です。



十一月七日 高田短期大学仏教教育研究センター公開講座が宗務院で行われました。

WEB version

WEB version

「苦行の果てに」

釈尊シリーズ ⑤



ゴータマ・シッタールタ（釈尊）は出家された後、六年とも七年ともいわれる過酷な苦行に入られました。その当時、苦行は精神の浄化をはかり偉大な力を生じさせると考えられていました。釈尊は岩窟や森林で苦行にはげまれました。そのすさまじさを仏教経典は「釈尊は一日に一粒のゴマや米

を摂るか、あるいはまったく食物を摂らなかつた。また、長時間呼吸を止める修行を行ったため、意識を失って倒れたこともあった」と伝えてあります。あらゆる苦行を成し遂げられた釈尊は、目は落ち窪み、骨格もあらわに、血管の浮き出た姿となられました。

しかし、老いの苦しみ、病の苦しみ、死の苦しみ、翻って生の苦しみに対して、体を痛めつけたり勝手な心の持ちようでは根本的な解決に至らない。そう気づかれた釈尊は苦行を捨てられました。

苦行林を出て、やせ細った体を尼蓮禪河とい

う河の水で清められた釈尊に、たまたま通りがかつた近くの村の一人の少女スジャータが牛乳で炊いたおかゆをささげました。

人間も含め、哺乳類は母乳で育ちます。施された乳がゆは生命の源を象徴しているのかもしれません。乳がゆからは、乳を出す牛のいのち、牛が食べる草のいのち、草が生える大地のいのち・・・、この世のいのちの連環、ひいては、すべては縁によって成り立っていることが想起されてきます。

また、スジャータは一国の王様でも苦行に優れた指導者でもありません。ただの一人の少女です。ただの名もなき一人の少女の施しから、釈尊は

真理に目覚める道筋を感じ得られていきました。釈尊のその姿はもう、快樂のかぎりをつくせた一国の太子ではありませんでしたし、その逆に快樂を徹底的に排除した苦行者でもありませんでした。

スジャータの乳がゆによって精気がみなぎった釈尊は一本の菩提樹の下で深い瞑想に入られました。瞑想にふけられる釈尊を、経典は「釈尊は菩提樹の下で東を向いて座り、金剛のごとく固い心をもつて、たとえ皮膚や肉や血が渴ききつたとしても、死に至るとも、さとりを開くまではこの坐を立たないとの決意をもつて座っていた」と伝えていきます。

また、スジャータは一人の少女です。ただの名もなき一人の少女の施しから、釈尊は

真理に目覚める道筋を感じ得られていきました。釈尊のその姿はもう、快樂のかぎりをつくせた一国の太子ではありませんでしたし、その逆に快樂を徹底的に排除した苦行者でもありませんでした。

*この河の名は「清らかな流れ」を意味する。

教学院第三部会

WEB version

私たちには必ず両親がいます。どちらかがこの世にいなかったら自分はこの世にいません。そして、その両親にもそれぞれ両親がいます。そのままずっとさかのぼっていくとします。もちろんだれでも親は二人いるはずですからどんどん親の人数は倍になっていきます。仮に二十代さかのぼることになります。そうしますと二十代前の親は百万人を超えます。正確に言うとお四五七六人です。そして、それまでの親をすべて足すと二〇九七二五〇人になります。二十代前から数えると私たちには二百万人以上の親がつながっているということ。もしその二百万人以上いる親が一人でもこ

の世にいなかったら、自分はこの世にいません。これは誰にでも言えることです。今は仮に二十代前までさかのぼりましたけども、もっとさかのぼると数えきれないくらいの「いのち」がつながって今の私がいるということになります。また親は子どもに対して必ず何かの願いを込めていると思えます。元気に育ててほしい、幸せになつてほしい。二十代前から見ると二百万以上の願いがつながりあつて今の自分がいます。相田みつをさんはこれを「いのちのバトン」と表現しています。その相田みつをさんの詩にこのような詩があります。

過去無量の

いのちのバトンを

受けついで

いま、ここに

自分の番を生きている

それがあなたのいのちです
それがわたしのいのちです

という詩があります。

今までたくさんいのちのバトンを受け継いで今ここに自分の番をいきている。それがあなたのいのちです。それがわたしのいのちです。

普段生活しているとなかなか考えないことですが、自分のいのちは、たくさんの人命を受けついできたバトンのようなものだと思います。二つとないたつたひとつのものです。私も含めましてみなさんが生まれてくるまで何万人ものいのちのバトン・願いが渡されてきたということです。そのおかげで自分がいます。

そしてそのいのちのバトンは誰でも持っています。決して自分ありきのいのちではないという意識を持って生きていくことが大切だと思います。

リレー法話

いのち

来照寺衆徒

生桑 崇等

WEB version

真宗念仏の一年を報恩謝徳

お七夜子ども大会
15 日

13:00-14:00
宗務院 2 階にて
受付 12:00-13:00

申込不要



お七夜新成人のつどい
9 日

12:30-14:00
宗務院 1 階にて
受付 11:00-12:30

申込不要



まるごと聴こうお式文
15 日

16:30 初夜
式文三段通読・婦人連合会初夜参詣
19:00 ししこ念仏
白塚通夜講によるお念仏
20:30 通夜念仏
一身田寺内町を中心にご和讃づとめ
23:00 後夜

如来堂特別講演
13/14 日

9:00-10:00
如来堂にて
13 日 梅林久高 師
14 日 清水谷正尊師
申込受付不要

今年もお七夜さんに行こう

高田本山の報恩講、お七夜さんの季節が今年も巡ってきます。七夜八日にわたり毎年一月九日から十六日の親鸞聖人ご命日にあわせておつとめされます。ご自身のところあらたに新年の報恩講にお参りしましょう。今年もお念仏の良縁の中ですごせますように。



あの人に会えるかな？

お七夜期間中のおつとめとおはなし

	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
7:00 晨朝勤行 説教	●	●	●	●	●	●	●	●
9:00 如来堂特別講演				●	●			9:00 御参席
10:30 日中勤行 説教	●	●	●	●	●	●	●	法主殿御親教
12:30 大講堂説教	●	●	●	●	●	●	●	●
14:00 遠夜勤行 説教	●	●	●	●	●	●	●	12:30 日の本
16:30 初夜勤行 説教	●	●	●	●	●	●	●	●
23:00 後夜勤行								●

献書展 1/9-16・生花展 1/9-15・宝物館展覧 1/9-16
宗旦古流呈茶 1/10-15

●行事案内

十二月八日～十日

中興上人御正當

十二月三十一日

除夜の鐘

一月一日～三日

修正会

一月九日～十六日

報恩講(お七夜)

三月十五日

涅槃会

三月十七日～二十三日

讚佛会

三月二十五日～四月九日

写生大会

三月二十七日～二十九日

中学生教化合宿



今年も護持会が中心となり、除夜の鐘をつきます。百八という数の制限はありませんが、時間制限がありますのでお早めにお越しください



三重県津市一身田町
真宗高田派本山専修寺
2819

寺院名